

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	誰もが目にしやすいエントランスホールに理念を掲示し、朝礼の申し送り後に、スタッフと管理者で音読し、日々の業務に繋げるよう心がけている。	エントランスホールに理念を掲示し、毎日のミーティングの際に管理者とスタッフにて音読をして、機会毎に理念の共有を図り日常の業務へ反映しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩中に地域の方と挨拶を交わしたり、地域の商店よりおやつ作りの材料や日常的な品物を購入している。	散歩や外気浴の際に地域の方と挨拶を交わしたり、地域の商店からおやつ作りの材料や日常的な品物を購入しています。また、地域のボランティアの来訪を受け入れるなど、交流の機会を提供しています。	インフルエンザ警報が収まる3月～4月を目途に、保育園や学校などの地域の方との活動を再開したいとお話がありました。地域との交流が以前のように更に広げられていくことに期待をいたします。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	2か月に1度の推進会議で、地域の民生委員や市の職員に向けて、認知症の支援や事例等を報告している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	推進会議で話し合った内容等をミーティングで取り上げ、サービスの向上に活かしている。	民生委員や地域包括支援センター、家族などと、近隣施設等にて2か月毎、運営推進会議を実施しています。コロナ感染症が発生した際には、アンケートを実施して家族の声を聞くなどし、サービス向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターの方との連携を常に取り、入居者の空き状況等に入居希望者を紹介していただいている。	運営推進会議の機会に、地域包括支援センターの方と、空き状況等の細やかな情報交換をしながら連携を図っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の勉強会を行い、一人ひとりのレベルに応じたケアをしている。玄関の施錠はしていない。	現在は身体拘束はありませんが、言葉遣いが気になる時や入居者が不安で立ち上がってしまう時など、機会毎に現状を把握して情報共有しながら、その都度柔軟な対応に努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修会や勉強会を行い、身体だけでなく精神面も視野にいれ、職員皆で注意している。			

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	入居の問い合わせ等の対応や相談に応じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、内容を説明するとともに、内容の変更を行う場合にも文書で説明し、理解・同意を得ている。入居希望の方にはグループホームに来ていただき、見学又は説明等を行い、納得した上で契約して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様の意見や要望等を、年に2回の家族会で話し合い、入居者様の支援や施設運営の向上に努めている。	家族会を年2回開催しています。家族の思いを聞いたり、利用者と同じ食事を食べていただいたりして、施設での日常の様子を見てもらう機会としています。来られなかった家族には、手紙を送付して運営のご理解・向上に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のミーティングにて職員からの意見を集め、運営に反映させている。月1回の責任者会議に、管理者・主任が参加し、各部署との意見交換を行い、会議の内容を職員に発信している。	月1回のミーティングにて、職員の意見を取り入れる機会や各部署との内容を共有することで、事故やヒヤリハットへの問題改善に繋がれるように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	有給などを取りやすい環境作りや、仕事上での心配事や異動の話等、上層部に相談できるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人教育マニュアルを作成し、指導する職員による指導内容の誤差・格差が発生しないようにしている。外部の研修会や内部の勉強会に参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同施設の勉強会や、他施設の同業者と推進会議等で交流を深めている。		

自己 外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前の面談等で、生活歴や現在の生活の状況を聞き取りし、安全安心で落ち着いた生活を送れるように努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前面談や施設見学等にて、本人・家族より要望や困難時の支援方法などを聞き取りし、関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前に家族・ケアマネから在宅での生活の状況を聞き、優先的な支援も含め、有効で具体的なサービス内容を検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	過去の経験などから、持っている能力や役割を見出し、本人と職員が共に取り組むことで、達成感や喜びを味わいながら、関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様との面談や、利用者様に必要な物を持って来ていただいた時、家族会参加などで支援方法を伝えている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族の協力を得ながら、馴染みの人との面会や電話での交流を図ったり、外出・外泊の機会を設けている。	介護度が上がってきた現状がありますが、家族と協力しながら、その方に寄り添った支援をしています。馴染みの美容院へ行ったり、馴染みの方と面会や電話で交流を図ったりして、外出や外泊の機会を設けています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	毎日の集団レクリエーションやおやつ作り・誕生日会などの行事で、お互いが関わり合えるような働きかけをして、協力しながら作業を進める支援を行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用の終了後も、本人・家族からの相談があった場合には、協力支援をしている。	

自己 外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様一人ひとりに担当をつけ、本人の希望や意向を聞き取りし、カンファレンス等で本人の能力に応じた暮らし方・支援の方向性を検討している。	利用者には担当をつけ、本人との関わりの中から、感じたり、望む姿を伺ったりして、その方に合わせた支援に繋がられるようにしています。カンファレンス時に方向性を検討する機会を設けています。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や馴染みの生活、過去のサービス利用の様子などを把握し、その人らしい暮らしができるように努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日ごと、時間ごとの変化にも注意しながら、一人ひとりの様子を観察し、現状の把握に努め、各自のペースで生活出来るようにしている。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	一人ひとりの課題についてカンファレンス等で話し合い、ICF(国際生活機能分類)の視点を取り入れて整理し、現状に即した介護計画を作成している。医療との連携も介護計画で支援している。	入居者一人ひとりの出来る事への支援を大切に(おやつ作りや洗濯たたみなど)、役割を感じながら自立した日常生活を送っていただいています。医療との連携も介護計画の中に盛り込むなど、安心を反映したプランに繋がっています。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録やケアの状況・本人の言葉などを記録すると共に、朝礼やカンファレンスなどで、情報を共有しながら日々のケアを行い、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	法人内の他部署と連携し、行事や娯楽の支援提供を行っている。主治医・看護師と連携しながら、バルーンカテーテル(膀胱留置カテーテル)を外すことができた例もある。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のボランティアに来所していただき、施設内の清掃や車椅子を洗ってもらうなどの協力をしていただいている。保育園との交流も始めている。		

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	併設の診療所の医師による定期検診の際、日常の様子や心身状況などの情報提供を行い、適切な医療に繋がれるように支援している。	併設の診療所の医師や看護師との連携は勿論の事、専門医への連携、利用者の状態に応じた協力医への速やかで適切な医療が受けられる環境づくりに努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	健康状態の変化を、併設の診療所の看護師に報告し、医師に繋げている。看護師からのアドバイスや指導は、役に立つことが多い。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、心身状態やADL(日常生活動作)、服薬などの情報提供を行っている。必要に応じて入院生活に必要な物品を届ける支援をしている。入院中もソーシャルワーカーから、治療経過を聞き取りし、退院後の生活の準備を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時から、終末期について、本人・家族・主治医・職員と方針や対応方法を話し合い、職員間でも共有し、本人が望む最期の迎え方となるよう支援している。	医療施設併設の利便性を活かし、入所から看取りまで支援しています。家族や主治医とその都度話し合いながら、本人が望む最期の迎え方となるように努められています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応マニュアルを整備している。ミーティング等で皆で勉強し、対応が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	法人内の施設と連携しながら、年2回の防災訓練を実施している。日中だけでなく夜間帯を想定するなど、訓練内容も考慮して行っている。実際の天候の変化(緊急警戒レベル)にも注意し、状況に応じた対応を取っている。	法人内の施設と連携しながら、日中だけでなく夜間想定をし、内容にも考慮した訓練を行っています。地域へのアピールや連携に取り組むことで、防災への対応を深めていきたいと考えています。	災害はいつ起こるかわからない為、自施設だけでは対応できない不安をお聞きました。地域との連携を深めるため、防災への取り組みを出来る事から更に充実させて、安全安心が確保されていくことを期待します。

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	丁寧な言葉遣いに心がけ、苗字で声かけをするよう心がけている。部屋に入室する際は、必ずノックをして挨拶をしている。排泄や入浴の際は、パーテーションやカーテンで仕切り、他者の目に触れないように対応している。	丁寧な言葉遣いは勿論ですが、排泄や入浴の際にパーテーションやカーテンで仕切ることで、本人への気配りや他者の目に触れないような配慮を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の思いや希望を、共感を持って傾聴し、それらを家事仕事や趣味の作品作りなどとし、日々の生活の中で実現できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人のペースに合わせた時間調整を行い、落ち着いて活動に取り組める支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝、整容・化粧の支援を行うと共に、衣類選びについても、本人の趣向や季節感を取り入れながら選んでもらうなど工夫している。2ヶ月に1回、外部の散髪事業者に訪問してもらい、散髪している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事作りや、おやつ作りでは、季節のメニューを考え、利用者と職員が協力して、準備・調理・片づけを行い、一緒に楽しんでいる。	おやつ作りでは季節のメニューを考え、利用者と職員が協力して、準備・調理・片付けを行い、楽しい時間を過ごしています。献立だよりには季節料理の言われなどが記載され、それも楽しみの一つになっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分の摂取量は毎回記録し、1日の摂取量を把握している。食事の補充として栄養補助食品を提供したり、水分不足が心配な利用者については、お茶のゼリーなどを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自立している利用者は、毎食後、自分で歯磨きをもらい、支援が必要な利用者は、職員が口腔ケアを行っている。義歯は専用洗剤で洗浄している。月に1回歯科医師、衛生士に往診してもらい、対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄後には、排泄チェック表に記載し、排泄パターンを分析して、時間誘導の声かけや排泄用品の選択に活用している。日中は出来る限りトイレでの排泄を促すことで、おむつの使用を減らすように努めている。	排泄パターンを把握することで、排泄用品の適正や立位が取れれば、日中はトイレへの誘導に心がけ、その方の自立や尊厳への配慮へと繋げています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食物繊維の摂取量を確保する為、食べにくい野菜は細かく刻むなど、食べやすい形態にして提供している。牛乳の摂取も勧めている。腸の活動を促すために、ラジオ体操やストレッチ運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	一般浴槽・特別浴(機械浴)の2種類に対応できるため、身体状況に合わせて週2回、支援している。入浴の時間などは、満足出来るよう支援している。	少し不安定でも浴槽を跨げるならば、職員が二人対応にて個浴への入浴を行うことで、入居者が満足する入浴となる様に、関わりを大切にしています。寝たきり状態になっても機械浴が完備されているので、週2回安心して入れる入浴環境があります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	散歩や日光浴など、太陽の光を浴びながら行う活動を取り入れることで、生活リズムを整え、就寝しやすくなるよう支援している。午睡では、体調に合わせ、いつでも休憩が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者毎の担当者が、処方内容を把握するとともに、日々の服薬状況と症状の変化を記録し、主治医に報告している。職員全員が服薬のマニュアルを理解し、服薬の間違いが無いように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	馴染みのある活動を把握し、日常生活の中で、やりがいを持って取り組んでもらえるよう支援している(洗濯物たたみや食器洗い、塗り絵などの趣味活動)。気候の良い季節には周囲を散歩し、季節を肌で感じ、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	入居者の希望に沿って、スタッフと一緒に散歩にでかけている。ご家族様と一緒にご自宅に行き、食事をしてくる事もある。	施設から近隣への散歩は、冬場でも天候を見ながら行っています。近くの保育園や田んぼ、その都度コースを変えるなどして、季節を感じるができます。また窓越しに身体いっぱい太陽光が感じられる機会を提供しています。	

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現金の管理はグループホームで行い、必要に応じて使用している。本人の好きな物を購入する際は、ご家族様に連絡して使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望があれば、電話をかけることができる。電話機の操作や事前に家族との調整を行うなどの支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	東向きの食堂や共有ホールは、日中明るく風通しが良い作りになっている。エアコンや加湿器を完備しており、一年を通して温度・湿度管理が行えるように整えている。室内の清掃も毎日行い、清潔維持に努めている。テラスの外は木々や草花などがあり、季節を感じられるようになっている。	食堂や共有ホールは明るくて風通しが良く、利用者はいつもの場所で過ごすことが出来ます。横に作られたテラスで、木々や草花を見ながらの食事やお茶会、レクリエーションが出来る環境があり、四季を感じながらの明るい日常があります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有スペースで日常生活し、一人ひとり自由に過ごし、一人になりたい時は、居室で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には本人の使い慣れた家具や備品を用意していただき、使いやすい配置を検討している。家族からの贈り物や写真を、目に入りやすい場所に置き、穏やかに過ごしていただけるよう工夫をしている。	居室は2階にあり階段もありますが、現在はエレベーターでの移動が多くなっていると聞きました。居室には、自宅で使い慣れたテレビやラジオ、写真など、大切にしていた品物を持ち込んでいただき、穏やかに過ごしていただける工夫を、家族と共にしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや居室の入り口には、貼り紙や目印を掲示することで分かりやすくしている。本人単独での行動の際には、行動の制限をしないようにしつつ、見守りや声かけを行うことで、安全に配慮している。		